愛知大学　３つのポリシー（2021～2023 年度）

■文学部　心理学科

教育研究上の目的

学則第１条（目的）
　本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。

学則第２条の２（学部及び学科）
　心と行動の科学を定義とする心理学の基礎的な方法を学び、人間や社会における問題点を自ら発見し、実験や調査、そして臨床研究によってその解決に導くことができる能力を習得させる。これらを通じて、客観的な視点から人間や社会を眺め、深く理解して、その成果を自らの日常生活や社会生活において応用できる人材を養成する。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

　文学部心理学科では、客観的な視点から人間や社会を眺め、深く理解して、その成果を自らの日常生活や社会生活において応用できる人材の育成を目指しています。
　心理学科では、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に従い履修規程に定められた科目区分毎の卒業必要単位数および履修要件をすべて満たし、厳格な成績評価を経ることにより、総計 124 単位以上を修得した学生に対して卒業判定を行い、学位（学士（心理学））を授与します。
　「卒業論文」は必修で、自分でテーマを決め、実験・調査を行い、得られたデータの分析と解釈、先行文献との比較を通して、自分なりの結論を導き出します。「卒業論文」については、論文審査と口述試験を行うことで評価します。
　これらを通じて、以下の能力を身につけることを教育目標と定めます。
（１）研究テーマを発掘する能力
（２）研究に必要なデータを得るための方法を考え、必要なだけのデータを収集・分析する能力
（３）ものごとを自分なりに考え、新たに想像し表現する能力
（４）分析結果を基に自説を展開し、プレゼンテーションを行う能力
（５）質問や批判に答え、他者と対話する能力

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

　文学部心理学科では、教育研究上の目的及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で示す人材の育成を目指しています。その実現のために、以下の方針に沿ってカリキュラムを作成しています。
（１）コミュニケーション能力、情報処理能力、基本的な思考方法や総合的な判断能力を養成するため「外国語」「数理・情報」「自然」「社会」「人文」「総合」「体育」の分野による共通教育科目を設けます。
（２）１年次生の専門教育科目では、全員が履修する「文学部総合研究」により文学部の各専攻の学問の基礎に触れ、文学部全体の学問を見渡すことで心理学を専攻する学生としての広い視野を得ます。それに加えて心理学科の導入科目として「入門講義（心理学）」および「入門演習（心理学）」、「心理学概論」が必修となっています。また、人文社会学科各コースの「入門講義」（２科目選択可）および「入門演習」（１科目選択可）を学部選択必修科目として設け、関心のある文学部の他の専攻の学問領域に触れる機会が提供されています。２年次以降の主要な専門教育科目として、心理学を基礎から応用に至るまで体系的に学ぶための演習などの学科必修科目と講義などの学科選択科目を履修します。
（３）公認心理師取得希望の学生は、公認心理師の取得に必要な諸科目を履修できます。
　講義・演習・実習等の授業形態と、少人数教育・アクティブラーニング・PBL などの多様な教育方法を組み合わせて実施することで、学術分野の特徴を活かした教育課程の展開と自発的な学修の促進を図ります。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

　文学部心理学科では、教育研究上の目的及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で示す人材の育成を目指しています。こうした観点から文学部心理学科では、求める学生像を以下のように考えています。
≪求める学生像≫
（１）［一般選抜］高等学校の各教科、とりわけ国語、外国語、公民、数学、生物、地理歴史について基本的学力を有しており、応用、発展的内容の学習へ進む準備ができている人。
［学校推薦型選抜］高等学校段階の各教科の基本的内容について学習、理解しており、大学における教育・学習に支障なく移行、適応できる学力を有している人。
（２）人間の様々な営みと活動について多様な興味や関心を抱いており、個、集団、地域などの観点から、あるいは過去、あるいは現在について観察、考察し、さらに未来を展望することに魅力を感じている人。また、そのための新たな、より高度な知識や分析手法を習得したいという意欲のある人。
（３）大学において学習、習得した心理学の専門的知識、視座、研究方法と広義のリテラシー能力、コミュニケーション能力を、将来自己の人生、職業、社会貢献などに活かしていきたいという意思を有する人。

2021.03.31　掲載